

実証実験結果のとりまとめの方向性

1. 実証実験実施団体の検証結果の報告の観点

■各実施団体がそれぞれの検証項目を達成できたか、結果の自己評価と本プロジェクトへのフィードバックの観点から以下のような項目の設定を検討中。

1. 実験のテーマ
 - (ア) 実験の目的（全体的な実験の目的の設定）
 - (イ) 実験の概要（実施手法の概要）
2. 実証実験の評価ポイント
 - (ア) 期待する成果の整理（検証項目の設定）
 - (イ) 成功の基準（達成レベルの設定）
3. 実施内容
 - (ア) 実施場所（実験の場所の設定）
 - (イ) 実施内容（詳細な実施内容の整理）
4. 検証結果
 - (ア) 実験結果の概要（設定した項目を検証できたか）
 - (イ) 実証実験の結果（設定したレベルの達成度合い）
5. サービスへの活用の検討
 - (ア) サービスイメージ（今回の結果をもとに実現が見込まれるサービスのイメージ）
 - (イ) 必要なPOI等の提案（サービス実施にあたって必要となる施設情報等）
6. 全体考察
 - (ア) 顕在化した課題の整理（予測した課題のみならず、新たな課題が顕在化したか？）
7. リソース（参考情報）
 - (ア) 物的リソース（実験にかかった機器やソフトウェア）
 - (イ) 人的リソース（実験にかかった人員）
 - (ウ) 時間リソース（実験にかかった時間）
 - (エ) 実験にかかった費用概算（参考資料として）

2. 測位機器・手法の横並び比較・検証の観点

■各測位機器や手法の特徴や向き・不向き、現状での限界や今後の将来性等を検討する観点から以下のような事項のとりまとめを検討中。

・精度

複合測位の場合の報告イメージ：エリア全体、実証実験のエリアごとに以下のような表で整理

	Wi-Fiのみ	BLEのみ	PDRのみ	Wi-Fi+PDR	...
平均誤差					
誤差5m以下時間率					
誤差3m以下時間率					

- ・精度がばらつく場合、その要因（測位機器の問題か（電波の安定性？）、他の環境が問題か（既存のスピーカー等との干渉？）等）
- ・測位の応答速度（レスポンス）
- ・位置情報を返す仕組み（サーバで位置情報を管理するか、アプリ側で処理するだけか、個人情報保護の観点から何らかの対応が必要か）
- ・セキュア通信（測位情報が改ざんされる危険性等）
- ・メンテナンス性（設置機器の寿命、管理のしやすさ、コスト等）
- ・各測位手法間の親和性、補完性（どの手法とどの手法が親和性が高く、どれとどれは相容れないなどあるか？測位機器の組み合わせの工夫の仕方など）

※実証実験実施団体の比較ではなく、機器や手法の比較ができるために必要な項目を検討中。

※上記項目は事前に各団体に伝えていないため、報告できる範囲での報告を想定。

3. 測位機器の設置・管理の共通ルール検討の観点

■測位機器の設置や管理に関する共通ルールの必要性の確認、ルール化すべき事項を検討する観点から以下のような事項のとりまとめを検討中。

○今回設置環境の評価

- ・今回の機器配置等は測位環境として十分か。特に、BLEの設置数はもっと少なくできるか。できるとすればどのような考え方でどのような配置がふさわしいか。（設置機器の最小化）

○測位機器の共通ルールについて

- ・測位機器の何をもとに測位しているか（電波のみ使用？マックアドレス、UUIDは必要不可欠か？有ればより良いというレベルか？ など）
- ・Wi-Fi AP、BLEの正確な位置が必要か？どの程度の精度で位置を管理すればよいか？
- ・今回の実証実験のように、同一の測位機器を各社がサービスに使う場合は一定のルールが必要か？必要とすればどのようなルールが必要か？（例：Beaconのメジャー、マイナーのルールやその情報の共有化など）